

## 【熊本国税局長賞】

### つぎは私が

宮崎市立赤江東中学校

二年 久保田 月空

私には父親がいない。母は障がい等級二級、それに加えシングルマザーである。三人兄弟を一人で育ててくれている母にはとても感謝しているし、尊敬している。

ある時学校の先生に、「税について作文を書いてみないか。」と言われた。私は勉強してみようと、税のことについて調べてみた。案の定、中学二年生の私にとって、税の仕組みは難しかった。そんな時、母に税金のことを聞いてみることにした。すると、障がい者は車の税金が安くなったり無料になったりする自動車税種別割制度や、ひとり親に対する医療費助成、児童扶養手当という年に四回お金を受け取れる制度など、他にもたくさん税との関わりがあることを話された。母は、優しい笑みを浮かべながら、「税金があるから家族が生きていけるんだよ。」と話し、さらに一言。

「ありがたい。」  
と言った。

母は離婚後、病気を持ちながらも三人の子供を育てなければいけない現実に思い悩んでいたらしい。「どうやって生きていこう。」そんな悩みを抱える母を助けてくれたのが、国民からの税で成り立っている、たくさんの手当だった。

私は、自分が税に支えられて生きていたにもかかわらず、なぜ今まで税について何も知らなかったのだろう、と思った。私が不自由なく生活を送ることができているのは、多くの人々が納めている税金のおかげなのだ、初めて気が付くことができた。

母の話聞き、詳しく社会保障制度について調べてみると、私たちの生活のほとんどはこの制度によって支えられていることが分かった。そう思うと、税金はとても大切で必要なものであると感じた。

今回税のことについて調べてみて、私は税を納める立場というよりは、今はその税金を使わせてもらっている立場だと気づいた。だから、将来私が社会人になったときは、しっかりと税金を納め、今まで支えてもらった分、「つぎは私が」誰かの支えになっていきたいと思う。どこからか、

「ありがたい。」

という言葉が溢れ、幸せな生活を送ることができる人が増えるように。